

## 鴨川下流域整備を考えるシンポジウムの開催報告

鴨川下流域における公共空間整備について、これまでの鴨川府民会議における議論を踏まえた基本プランを作成し、昨年3月21日にシンポジウムを開催し、府民への周知を図るとともに、幅広く意見聴取したところ、その結果は下記のとおりでした。

### ■ 皆さまからの意見の概要

▼ シンポジウムやホームページ等で寄せられた意見総数 32件

#### 【プランの内容に関わる意見】

- ・ 自然環境に配慮して、憩える、寛げる、水に親しめる整備を 9件
- ・ 利用者は沿川の住民であり、地域等の意見を十分に聞くべき 7件
- ・ 地域の文化・歴史と連携した整備内容、鴨川のあり方も考慮すべき 7件
- ・ 安心安全を第一に考えた公共空間整備を求める 3件
- ・ その他（性急な整備はやめるべき、市民農園、目標を持って） 3件

#### 【プラン以外の要望】

- ・ ホームレスの解消、草刈り回数の追加、自転車通行制限等 3件

<別添「鴨川公共空間整備基本プランに対する意見」参照>

### ■ 開催結果

鴨川下流の地域や住民の意見を十分に聞きながら、自然環境の保全や利用者が憩い・集える河川公共空間を創出していく拠点箇所等の整備に対する基本的な考え方について理解が得られた。

### ■ これからの進め方

今後、この基本プランで掲げた拠点整備箇所について、地域や住民のニーズを聞くために、ワークショップなどを開催して、計画段階から地域住民と連携協働して詳細設計を実施していく。

<別添「鴨川下流域整備基本プラン」のリーフレット参照>

#### ▼ 公共空間整備の基本的な考え方

- ① 高水敷整備（ジョギング・遊歩道の整備による連続化と利用促進）
- ② 季節や自然を身近に感じる河川空間を創出する拠点箇所の整備

# 鴨川下流域整備基本プランに対する意見について

## 【プランの内容に関わる意見】

### 《自然環境に配慮して、憩える、寛げる、水に親しめる整備を》 9件

- ・豊かな自然を最大限に活かした整備を進めて欲しい。
- ・下流の整備は、上流に比べて遅れている。自然環境に配慮し、憩える整備を考えたい。
- ・東屋、ビオトープ、花壇等を作り、公園化して皆が楽しめる場所にしてはどうか。
- ・堤防上に木を植え、車の通行を禁止し、歩行者がゆっくり寛げ、愉しめる場所にする。
- ・下流域整備にあたり、下流域に担当事務所を置かなければ地域の声は届かないのではないか。
- ・高水敷の芝生緑化は疑問。ツメクサの方が花輪作りなど楽しめて良いのではないか。自然な水際の整備も工夫してほしい。
- ・水辺で遊べるようにしてほしい。セーヌ川河畔のような風景を鴨川で実現できれば有難い。
- ・鴨川の水は、都市河川としてはかなりきれいだと思う。ホテルでも育ててみたらどうか。
- ・中州を除去することにより、鳥類の留まる場所や風情が無くなる。

### 《利用者は沿川の住民であり、地域等の意見を十分に聞くべき》 7件

- ・下流域は中流域と違い、地域の方が主に利用されるため、地域にとっての意見を尊重すべき。
- ・地域にとっての愛着を高めるため、地域の記念植樹スポットの確保してはどうか。
- ・不法投棄問題は、地域が強い関心をもち、投棄しにくい環境づくりをすることが大切と思う。
- ・地域の方から河川愛護推進員を任命してはどうか。
- ・整備をどう進めるのか見えない。工事内容の提供等、沿川に開かれた整備であってほしい。
- ・地域のニーズを推すため、大規模なアンケートを行ってはどうか。
- ・五条から下流の整備をしてほしい。

### 《安心安全を第一に考えた公共空間整備を求める》 3件

- ・第一に安心安全の確保
- ・増水時に逃げられるようにしてほしい。また、浸水危険箇所には、増水予想等の表示を希望する。
- ・水質を監視出来るようにし、水を汚す行為に対し、的確な処置や対策がとれるよう、鴨川条例の見直しをする。

### 《地域の文化・歴史と連携した整備内容、鴨川の在り方も考慮すべき》 7件

- ・整備計画に地域の文化的・歴史的視点が欠けている。
- ・下流域について、もっと特色あるものがないのかが素直な感想。府の計画は、他の川とあまり変化が無いので面白味が無い。
- ・都市河川の課題を共有し、また、全国に鴨川の魅力を発信していくために、全国都市河川サミットを開催してはどうか。
- ・中州が拡大して水が見えない。岸辺だけでなく、水の流れの整備についても御願いたい。
- ・パネリストの皆様方の活動について、感心して聞かせていただいた。金田氏の説明が大変素晴らしく、今後、責任重大なことを決めていくのだと感じました。
- ・河川敷がイベント会場にならないようにしてほしい。
- ・次世代の子供たちのためにグラウンド整備も希望する。

### 《その他(性急な整備はやめるべき、市民農園、目標を持って)》 3件

- ・上・中・下流域にわけ、開発状況、過程、当面・中期的目標等を明確にする必要がある。
- ・河川敷で貸し農園、市民農園などの整備も考えてはどうか。
- ・長い歴史の中で文化と一緒に育まれてきた下流域の整備は、ゆっくりとやるべき。現在の担当者たちが性急にやるべきではない。整備は骨格のみとし、後は後世の人にまかせるべき。

## 【プラン以外の要望】

### 《ホームレスの解消、草刈り回数の追加、自転車通行制限等》 3件

- ・夏草が生い茂る前に刈り取ってほしい。年2回だけの草刈りは少ない。
- ・ホームレス問題について、ぜひ検討願いたい。
- ・自転車通行不可にしてほしい。



# 鴨川公共空間整備基本プラン

京都府では、快適な利用の促進と自然環境に配慮した新しい鴨川の公共空間を創出する取り組みを進めます。

## 鴨川公共空間整備の基本的な考え方

### 1. 高水敷整備(ジョギングロード等の整備と利用拡大)

多様な主体が様々な目的で利用している鴨川等の高水敷が、一層地域に親しまれ、多くの人に利用されるよう連続化を図るとともに、ジョギングやウォーキング等の利便性・快適性向上を図る施設の整備を実施する。

### 2. 拠点箇所や緑化の整備(季節の移ろいや自然を身近に感じる河川空間の創出)

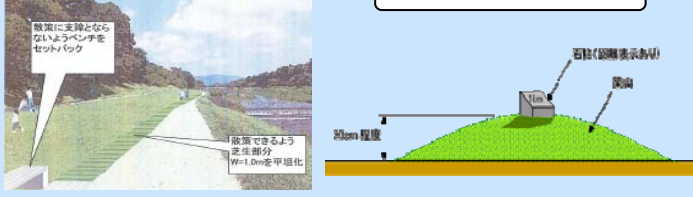
下流域において、自然な水際の再生等による親水空間の形成、新しい並木や木陰を設ける緑化整備を進め、季節の移ろいや自然を身近に感じる河川空間を創出する拠点整備を実施する。

## 高水敷(ジョギングロード等)の整備概要

### 鴨川公園と高野川 [全長 17.2km]

- 快適に利用できるよう既設の高水敷遊歩道を活用・更新する。
  - ・足にやさしい土系舗装(新設、維持・補修時の更新)
  - ・芝生の舗装で拡幅(鴨川公園など高水敷に余裕がある区間)
  - ・市街地からの進入路の整備
- ウォーキングやジョギングの目安となるコース(←→)設定を行う。
  - ・案内標識や距離標、橋梁名板、啓発標識(皆が安全・快適に利用できるための注意)の設置等

距離標のイメージ



### みそそぎ川周辺

- 更に多くの人々が快適に集い、憩い、利用できる高水敷整備を実施。
  - ・自然を感じ、やすらげる緑化整備(主に芝生)
  - ・足にやさしい土系舗装
  - ・治水上の支障がない構造
  - ・バリアフリー化
  - ・町並み、納涼床などと調和する色調



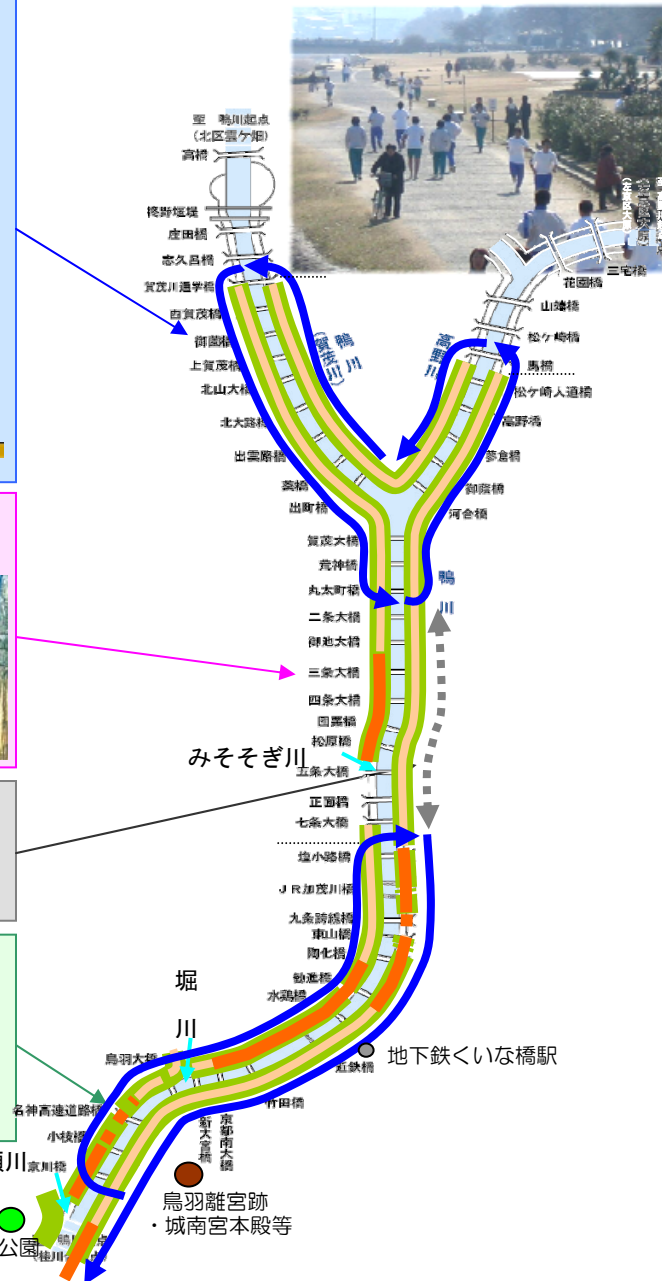
### 市街地中心部左岸(七条～二条) [全長 3.2km]

- 既設の遊歩道空間を、快適で安全に移動できる移動軸として設定
  - ・更新時の土系舗装
  - ・案内標識や距離標等の設置

### 鴨川下流 両岸 [全長 14.4km]

- 改修と合わせ、分断している高水敷と遊歩道を連続化する。
  - ・足にやさしい土系舗装
  - ・市街地からの進入路整備
- ウォーキングやジョギングの目安となるコース(←→)設定を行う。
  - ・案内標識や距離標(路面表示含む)の設置

- 高水敷遊歩道が整備されている区間
- 高水敷遊歩道を新たに整備する区間



## 鴨川下流整備を考えるシンポジウムが開催されました(3月21日)

「鴨川下流域整備を考えるシンポジウムくうおいと安らぎの下流域を目指して」が3月21日に開催され、139名が参加し、「鴨川公共空間整備基本プラン(案)」の概要について、府民のみならずとも考える機会を設けることができました。

●開催日時 平成22年 3月21日(日・祝) 午後1時30分～午後4時00分

●場所 キャンパスプラザ京都「第一講義室」

### ●プログラム

- ・開会の挨拶(京都府知事 山田啓二)
- ・基調講演「変わってきた鴨川下流域の姿」 金田 章裕氏(人間文化研究機構 機構長)
- ・鴨川公共空間整備基本プラン(案)の説明 京都府河川課
- ・パネルディスカッション「これからの鴨川下流域における公共空間整備について」
  - コーディネーター 金田 章裕氏(人間文化研究機構 機構長/京都大学名誉教授)
  - パネリスト
    - 中村 桂子氏(日本野鳥の会・京都支部副支部長/鴨川府民会議メンバー)
    - 杉江 貞昭氏(鴨川を美しくする会事務局長/鴨川府民会議メンバー)
    - 島田 和明氏(京都市都市計画局都市企画部都市政策担当部長/らくなん進都整備推進協議会)
    - 望月 斐加氏(伏見観光協会/淀川管内河川レンジャー)

## 基調講演～変わってきた鴨川下流域の姿～

金田 章裕氏

「変わってきた鴨川下流域の姿」と題して、人間文化研究機構 機構長・京都大学名誉教授の金田章裕氏の基調講演が行われました。

鴨川の特徴や課題、これらを背景とする関連計画の説明をはじめ、中・上流での利用状況などにも触れながら、「一定の基盤整備が進んできたものの、今後はより多くの人に親しまれ、利用される空間としていくべき」と、鴨川下流域における課題と今後の整備の方向性について、示唆に富んだお話をいただきました。



## パネルディスカッション～これからの鴨川下流域における公共空間整備について～

河川管理者(京都府河川課)による「鴨川公共空間整備基本プラン(案)」の説明の後、金田氏をコーディネーターに、パネルディスカッション「これからの鴨川下流域における公共空間整備について」が行われました。

パネリストの方々がそれぞれ専門とする「環境・水辺」「地域協働」「まちづくり」「商工・観光」の観点で、活発な意見交換が行われました。



中村氏(環境・水辺) 杉江氏(地域協働) 島田氏(まちづくり) 望月氏(商工・観光)

京都府建設交通部河川課・京都府京都土木事務所

ご意見・お問い合わせ先: 075-414-5287 Email: kasen@pref.kyoto.lg.jp (建設交通部河川課)

詳細は、京都府鴨川ホームページをご覧ください <http://www.pref.kyoto.jp/kamogawa>



# 鴨川下流域拠点箇所等の整備概要

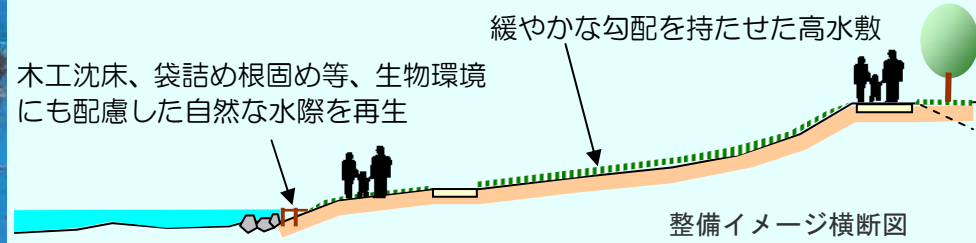
## ■水とのふれあい回廊

鳥羽大橋下流は、水とのふれあい回廊として、自然な水際の再生と高水敷からの緩やかなアプローチを確保して親水空間の整備を図る。



木工沈床、袋詰め根固め等、生物環境にも配慮した自然な水際を再生

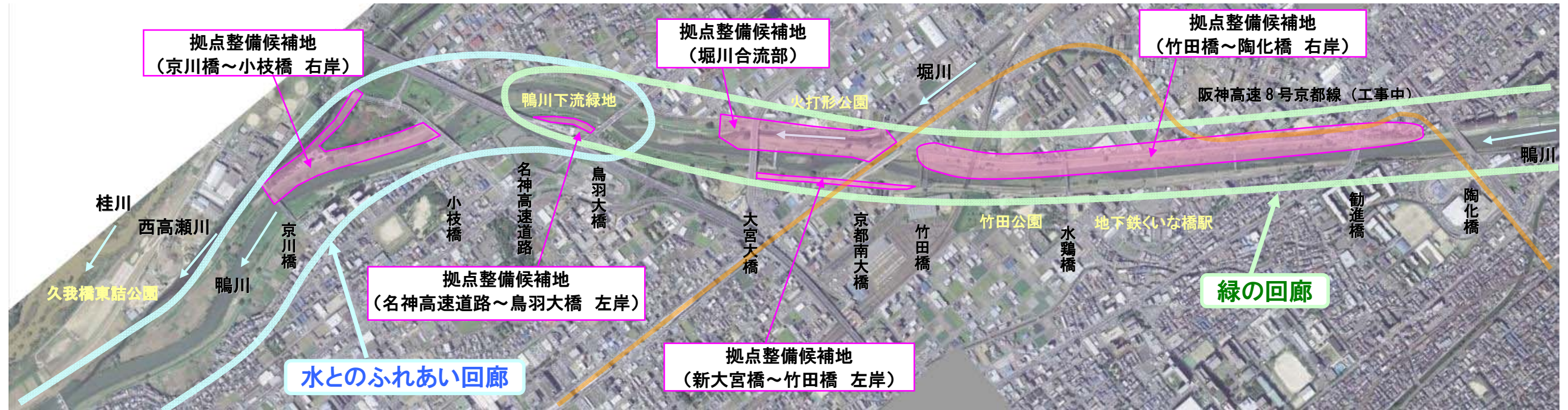
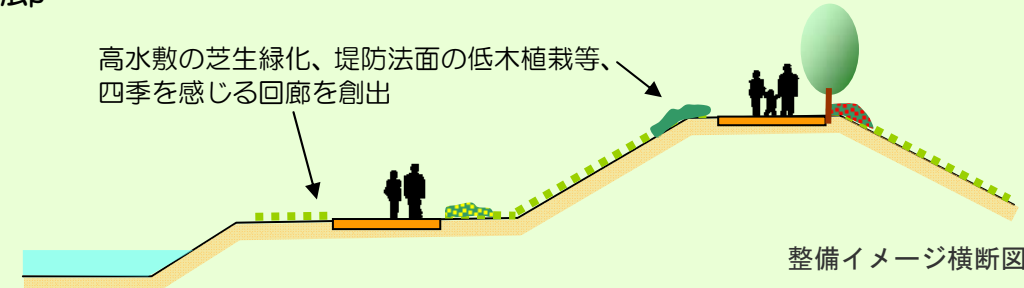
緩やかな勾配を持たせた高水敷



## ■緑の回廊

七条～鳥羽大橋間は、緑の回廊として、新しい並木や木陰を設ける緑化整備を図る。

高水敷の芝生緑化、堤防法面の低木植栽等、四季を感じる回廊を創出

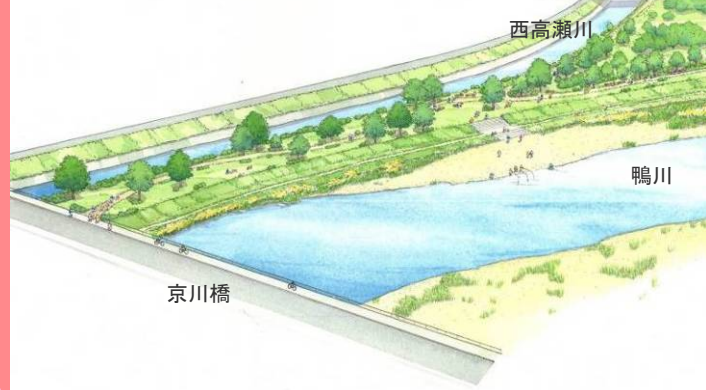


## ■拠点整備 (候補地における整備のイメージ)

### <京川橋～小枝橋 右岸>

- ・サイクリングロードからも立ち寄り、四季を感じる休憩スポット、鳥羽地区の歴史や鴨川のジョギングコースの案内サイン、水とふれあえる親水空間の創出
- ・河川改修と合わせた高水敷の環境整備

#### ◆西高瀬川合流部整備イメージ図



### <堀川合流部>

- ・堀川右岸堤防天端整備(公園と一体化した遊歩道整備等)
- ・連続性確保(木橋設置等による連続性の確保)
- ・堀川合流部背割り堤空間整備(桜並木の延伸、河川改修と合わせた親水性のある高水敷の整備等)

#### ◆堀川合流部整備イメージ図



### <竹田橋～陶化橋 右岸>

- ・開放的な空間を活かし、高架橋の圧迫感を緩和する並木植栽・休憩スポット等の整備を図り、新しい景観を創出
- ・河川改修と合わせた親水性のある高水敷の環境整備

#### ◆勸進橋下流整備イメージ図



### <名神高速道路～鳥羽大橋>

- ・堤防法面や天端でスポット的な緑化整備を図り、あわせて木陰や休憩場所を設け憩いの場を創出

#### ◆整備イメージ

